

赤須城跡調査報告書

駒ヶ根市教育委員会

序

駒ヶ根市は県南部に位置し、東と西に中央アルプス、南アルプスが連なり、中を天竜川が流下する山紫水明の自然環境に恵まれた地である。

かゝる風土の中に、中世の鎌倉、室町時代の城郭址が10数郭あり、とりわけ赤須城跡は規模も大きく貴重な城郭として、昭和52年これを、市指定した。

これまでに赤須城跡の実測、周辺地籍の一部発掘、又こゝに居城した赤須氏について、文献上の研究など行われてきた。

今回、こうした成果の上に立ち

- ① 赤須氏に関する文献資料の検討。
- ② 地名として残るものを $\frac{1}{2500}$ の地図に明確に落とす。

以上の2点に重点を置いて調査、研究を行なった。幸い本調査を担当された友野良一先生のご努力によって、その成果を記録に残すことができたことは、大変喜ばしいことであり、こゝに深甚なる感謝を申し上げる次第である。

本報告書が、これからの研究に少しでも役立つならば、一層幸いである。

昭和62年3月

駒ヶ根市教育委員会

教育長 木下 衛

目 次

序	
目 次	1
調査組織	2
調査記録	2
第1図	3
地名表	6
図 版	8
附 図	

調査の組織

教育長	木下 衛
教育次長	中村 平一
博物館長	福沢 正陽
社会教育係長	堀 勝福
主任	滝沢 修身
博物館学芸員	友野 良一
調査補助員	下平 博行
◇	田中 活征

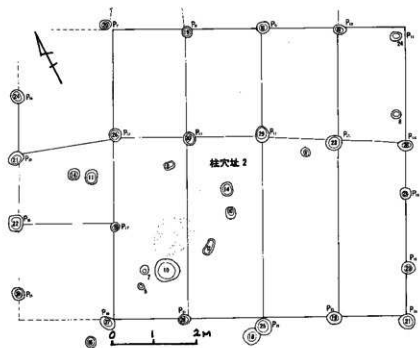
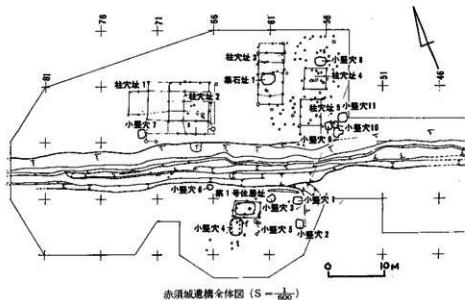
調査記録

赤須城址

赤須城址は、駒ヶ根駅より東方約2km天竜川右岸段丘上に所在する城郭である。城郭の南は宮沢川の侵食による自然の堀り、北は田沢川の南辺、西は平垣地で現在赤須町の東端に達している。今のところ、城郭の規模は東西900m、南北400mの範囲と推定される。

現在の赤須城は天竜川の段丘に添った連郭式の平山城である。この城の縄張としては、段丘の突端に外城、本郭、二の郭、出郭、添郭などが一応今迄の研究者によって区分されてきているが、文獻的の面から付された郭名ではなさそうである。まず、外城の東端尾根には帯郭が設けられているのは、一般的に天竜川河岸段丘上特に浸食谷を利用した城郭にあつては、多くの場合帯郭が用いられている。赤須城もその例外ではない。本郭との間には南と北に通した堀が設けられている。本郭西から南にかけ土塁が残っている。二の郭は西側に南と北に通った堀が設けられ、それに添い西北が高い土塁がめぐる。その西側に出郭がある。現在耕作地になっていて、郭の規模は明かにすることは困難な状態である。この郭には特に2条の空堀りが設けられていて、北の堀は長春寺と「小屋」という地名に通ずる堀底道である。また、南側も入口から登ってくる堀底道もあるところ、城郭の築造上問題とされるところである。その両側に「壑」という地名があり現在畑地となっているが、ここからは中世の陶器片が多く採集されたことにより、あるいは、ただたんなる武家屋敷ではないかという考え方もあったが、城上井や添郭の堀りの位置からあるいは、一つの郭的な区画かも知れない。このことについては今後の研究にゆだねたい。添郭と言われている郭は北側が天竜川の段丘面に接しているが、郭の内側の南の面を削り取り幅の広い土塁としている。この方法は伊那の諸城にこの例を多く見るところである。この郭の西に南北に細長い郭

があるが、ここには堀形もある。他の郭からは遺物が出土しているが、この郭の面から遺物はほとんど発見されないし、土器らしき施設も認められない。この郭の面は「伴城平」と言う地名が残っている場所で、田地造成が行われる時点で調査を行ったところ、半月形に西から東に縦堀が発見された。この堀の南側に掘立建物址の跡が発見されているところより、あるいは、赤須城にかかわりのある地名や遺構かも知れない。「伴城平」の西に6の堀があるが、この堀附近が赤須城の縄張の西の境いではないか。昭和54年県営園場整備に伴い城上井の南側を発掘調査したところ、



第 1 図

赤須城柱穴址 2号

縦堀が発見され、この縦堀が赤須城の本郭に向っていることが確認され、おそらく、古い城上井はこの縦堀であった可能性もある。この縦堀の左右に小竝穴11基、堀立建物址5軒分、住居址1軒検出された。出土した遺物は室町時代、戦国時代、江戸時代のものが発見され、時期的には赤須城に係する資料と考えられる。以上が赤須城址の研究成果のあらましである。

城に関した地名。城の字名がつく地名、小城、小城上、茶の城、青木(城)、伴城平、等がある。堀のつく字名、西堀。屋敷の字名では古屋敷。城下集落を示す地名としては、小屋、小屋前、市坂、垣外など。城郭施設に関する地名、「馬ぶち」、入口、出口等がある。そのほか、小鍛冶、小鍛冶火打山などがある。

赤須氏、赤須城に関した文献の主なもの上伊那郡誌(歴史編)、伊那の古城、信濃資料、日本城郭大系、長野県史、片桐村誌、駒ヶ根の史蹟と文化財等がある。

「信陽城主得替記」によれば元久二年(1205)片切正綱の三男孫三郎正則が、赤須郷に分知して五百貫文を領し、所在地名をとって赤須氏を名のつたとある。おそらく赤須郷が文献にあらわれるのはこれが初見と思われる。赤須郷はすくなくとも平安時代にはすでに存在した郷であろう。信濃春近領について稲垣泰彦氏は、信濃春近領は公領であることをあきらかにし、いままでの論争に決着つけた。それによると、その当時有力在庁が春近という名義を使い請負人となって設立した所領で、在庁名の一つと考えられる。その有力な在庁が泊承、寿永の内乱で、平氏あるいは義仲に味方したため、春近領は頼朝に没収され將軍家を本所とする関東御領となった。伊那春近に所属した郷の中に「赤須郷」が見える。伊那春近全体の地頭は北条氏の惣領で「得宗領」となっていた。その支配のため現地に弘安8年(1285)当時政所池上次次郎入道が派遣されていた。池上氏の下に各郷毎に「地頭代」が補任されて、小井戸二能郷には北条氏の家臣工藤小出氏が、「地頭代」になっていた。「千家文書」赤須郷の赤栖氏については、御家人となり赤栖五郎入道の遺領をめぐって兄弟相論があったことを知るのみである。鎌倉時代の赤須氏の動向については資料を欠きまったく不明である。

上伊那郡誌(歴史編)に赤須氏は暦応中(1338~1341)年に片桐氏の分流孫三郎為幸ここに居を構え赤須氏と号するとある。「信陽城主得替記」による元久二年(1205)片切正綱の三男孫三郎正則ここに居を構とある。この二つの異った記にたいしては、今後の研究にまちたい。

「松崎文書」応永元年(1394)2月15日赤須為幸が伊那赤須郷の公田惣段数を注しているが、その中に「春近公田6段半」とある。これによれば、赤須郷には春近領の公田があったことにより、赤須一帯は春近領に属していたというわけである。

「大塔合戦」応永7年(1400)大塔軍記に伊那地方の諸族の多くは小笠原氏の旗下に属している。春近の人々の中に赤須孫三郎の名が見える。

「諏訪御符札之古書」文安3年(1446)諏訪社御射山花会の祭礼に奉仕した御頭足を記した記録に、赤須又三郎(大塔物語)赤須孫三郎(大塔軍記)にその名が見える。また、赤須伊勢守為康、赤須大隅守為有とある。

結城陣番帳(1441)にも赤須殿とある。

武田信玄が忠勤を誓わせた起請文に永禄10年(1567)8月信玄信濃諸将に、小県郡生島、足島神社に起請文を捧げさせている中に赤須二郎頼泰の名が見える。戦国時代の赤須城主はこの頼泰であったかもしれない。赤須城はこの頼泰の時代に現在残っている戦国城郭に改築したのではなかろうか。

織田軍は天正十年三月十七日飯田から大島城を経て飯島に着陣している。赤須二郎三郎頼泰は大島城に戦い家名を失うとある。

その後と赤須氏については次回に記すこととしたい。

まとめ

今回の赤須城址附近の地名調査を実施したなかで新しく知り得た二、三の問題点について記してみると、

- 1、赤須城址の城郭形態は伊那谷特有な河岸段丘に作られた連郭式の戦国城郭である。
 - 2、赤須城址には思いのほか城に直接かかわっている地名が以外に少ない、特に「小城」という地名が城域の全体にひろがっていることに注目される。このことは赤須城の推移に関係しているのではなかろうか。
 - 3、赤須城の区域内という個所の発掘調査では、12世紀代の古い遺構遺物が出土しなく、15世紀以降の遺物が多く発見されている。このことは、赤須城としての郭の成立に何らかの、かかわりを示しているのではないか。
 - 4、今回の調査で経塚地籍内に古い地割と古代、中世的な地名が集中して多いことである。例えば、西堀、古屋敷など古い類的な地名が見えるところ、赤須城址と切放して考える必要があるのではないか。このことは現地調査とあわせて十分検討するに値する問題であろう。
- 以上の諸点から赤須城の新しい研究の方向の一視点となれば幸いである。

福沢・友野

赤須城とその附近の地名

No.	地名宛字	地名呼名	地番	横図番号	No.	地名宛字	地名呼名	地番	横図番号
1	山 際	やまぎわ	1078~1109	下平No.25-2	30	七つ下り	ななつくだり	1664~1678	下平確定図 その1
2	西ノ平	にしのひら	998~1006	下平 No.23, 24, 19	31	南 田	みなみだ	1664~1678	下平No.29
3	田 沢	たざわ	912~ 919	下平No.19	32	とちのとふ	とちのとふ	277~ 287 250~ 257	下平確定図その2 下平No.7-1
4	小 屋	こや	941~ 942 999	下平No.24	33	古 屋 敷	ふるやしき	258~278 257	下平No.7-1
5	相 田	あいだ	1053~1059	下平No.25-2	34	市 販	いちざか	245~ 249	下平No.7-2 No.7-1
6	ツブノ尻	つぶのじり	1112~1114	下平確定図 その4	35	南 原	みなみはら	310~ 316	下平No.7-2 No.7-2
7	荒 用	あれだ	1115~	下平確定図 その4	36	北 久 保	きたくぼ	348	下平No.7-1
8	中 新 田	なかしんでん	1335~1344 1359	下平確定図 その4	37	よ 四 郎 山	よしろうやま	244	下平No.7-2
9	角 田	すんばた	1399~1401	下平No.23	38	西 原	にしばり	242	下平No.7-2
10	角 田	すんばた	1345~1358 1360~1389	下平確定図 その4	39	小 瀬 治	こかじ	173~ 176	下平No.7-2
11	馬 ぶち	まぶち	1202~1210 1868~1874	下平確定図 その4	40	串 坂	くすまざか	288, 289 293	下平No.7-1
12	七つ下り	ななつくだり	1857~1860	下平確定図 その4	41	入 口	いりぐち	473~ 480 505~ 509	下平No.11No.33 No.7-1
13	川 原	かわら	1861~1867 1856~1876	下平確定図 その4	42	南 原	みなみはら	472	下平No.33
14	小 屋	こや	988~ 996 956~ 971	下平No.23 下平No.11	43	南原道上	みなみはら みちうえ	435~ 449 465~ 470	下平No.9No.10 No.33
15	小 屋	こや	984~987, 992 1450~1452	下平No.27	44	道 み ち		432, 434	下平No.9
16	沼	ぬま	1449	下平No.27	45	道 上	みちうえ	416~ 431	下平No.9
17	寺 裏	てらうら	973~ 983	下平No.27	46	大そり道上	おおそりみち うえ	404~ 407	下平No.9
18	寺 西	てらにし	1453~1471	下平No.27	47	南原水落	みなみはら みずおち	458~ 464	下平No.9 No.10
19	元 沼	もとぬま	1402~1431	下平確定図 その3-1	48	南原道上 水落	みなみはらみち うえみずのおち	450~ 456	下平No.9
20	小 原 前	こやまえ	1432~1665	下平確定図その3-1 下平No.11, 29	49	宮 沢	みやざわ	480~ 504	下平No.10No.11 No.12
21	川 原	かわら	1798~1855	下平確定図その3-1 その3-2, その2	50	伴 城 平	ばんじょう だいら	787~ 831	下平No.17
22	川 原	かわら	1753~1756 1761~1797	下平確定図その1 その2	51	梅 ノ 木	うめのき	846~ 891	下平No.17, 18 19
23	小 原 前	こやまえ	1445~1448 1571, 1575, 1589	下平確定図その3-2 その2	52	伴 城 平	ばんじょう だいら	845	下平No.17, 18 19
24	南 田	みなみだ	1676~1678	下平確定図 その3-2	53	ふ じ 山	ふじやま	832~ 843	下平No.17 下平No.17, 18, 19
25	入 口	いりぐち	1659~1002	下平確定図 その3-2	54	富 士 山 南	ふじやまみなみ	630, 643~662	下平No.15 No.21
26	中 新 田	なかしんでん	1518~1542	下平確定図 その3-2, その2	55	経 塚	きょうづか	11249~ 11268	No.173, A, B
27	丸 塚	まるづか	1679~1692 1694~1720	下平確定図 その1, その2	○	○	○	11385~11399 15634~15693	No.174A No.233, 234
○	○	○	1740~1743	その3-2	○	○	○	15724~15735	
28	川原北の島	かわきたのしま	1693	下平確定図 その2	56	北 原	きたはら	11400~11418 11371~11382	No.173, A, B No.174, A, B
29	権 田 島	ごんたじま	1749	下平確定図 その1	○	○	○	11387	

No.	地名宛字	地名呼名	地番	横図番号	No.	地名宛名	地名呼名	地番	横図番号
57	宮ノ北	みやのきた	11363~11362 11366~11380	No.173, A, B No.174, A, B	87	阿いの田	あいのた	125~128	下平No.14乙
*	*	*	11383, 11385,11419~11429		88	西田	にしだ	124	下平No.14乙
62	日本本	にほんぎ	11256~11259 11238~11253	No.174-A	89	さいの神	さいの神	119~123	下平No.14乙
*	*	*	11267~11324 11326~11330	*	90	とちのとふ	とちのとふ	250~258 275~281	下平No.14乙
63	宮ノ越	みやのこし	11466~11472	No.174, A, B	91	板屋	いたや	129	下平No.14乙
64	舟久保	ふなくぼ	11325	No.174-A			205~207 221~222		
65	前田	まえだ	11358 11359	No.174-B	92	上ノ平	うえの たいら	226~227 216,224,239 238,232~234 214~215	下平No.14乙
66	原田	はらた	11330, 11332 11340, 11341	No.174-B					
67	美女ヶ森 米引き内	びじよがもり しゃびきない	11475, 11476	No.174, A, B	93	南原	みなみはら	298	下平No.14乙
67	小城	こじょう	510~612	下平No.11 下平No.12 小城No.2 小城No.1 下平No.13 下平No.14 下平No.21 下平No.20, 22, 23, 24 下平No.23 下平No.24 下平No.16, 19, 20	94	聖尻房	ひじりぼう	198, 204, 197	下平No.14乙
68	小城	こじょう	663~786		95	羽場	はば	102~104 107	下平No.14乙
69	小城	こじょう	614		96	屋敷添	やしきぞえ	116~118 132	下平No.14乙
70	小城	こじょう	920~955		97	中田	なかだ	97~99100 80~83	下平No.14乙
71	小城	こじょう	964		98	東河原	ひがしかわら	98, 85~94 84	下平No.14乙
72	上小城	かみこじょう	613		99	古屋敷	ふるやしき	259~267 272, 271, 270	下平No.14乙
73	*	*	615~629	下平No.14 14甲 下平No.14乙	100	西郷	にしばり	242, 243	下平No.14乙
74	*	*	632~641		101	稲荷山	いなりやま	240~241	下平No.14乙
75	小鍛冶	こかじ	140~147, 149 135~138, 151	下平No.14甲	102	荒田	あらた	79	下平No.14乙
*	*	*	162, 168	*	103	市販	いちざか	245~249	下平No.14乙
76	とちのとふ	とちのとふ	282~285	下平No.14甲	104	よ西郎山	よしろうやま	244	下平No.14乙
77	小鍛冶沢 道上	こかじさわ みちうえ	37~39	下平No.14甲	105	小鍛冶沢	こかじさわ	2	下平No.14乙
78	古屋敷	ふるやしき	269	下平No.14甲			21~29 33~35 8, 4, 5 11~18 31		
79	垣外	かいと	134	下平No.14甲	106	小鍛冶沢 道上	こかじさわ みちうえ		下平No.14乙
80	小鍛冶 大打山	こかじ ひうちやま	46, 53	下平No.14甲					
81	上ノ平	うえのたいら	225, 230	下平No.14甲	107	券明神	じゅみょうじん	111	下平No.14乙
82	聖尻房	ひじりぼう	201~203 199	下平No.14甲					
83	南田	みなみだ	58, 59, 65, 66 69~74	下平No.14甲					
84	弥助田	やすけだ	60~64	下平No.14甲					
85	外麦田	そとむぎた	105~106	下平No.14乙					
86	畑田	はただ	112~115	下平No.14乙					地名表作成 下平・田中

赤須城の
本郭



赤須城
二の郭と
土塁



赤須址
本郭と
二の郭



図版 1



本郭と二の郭の北の撮



外城の撮



二の郭南の西の撮



二の郭の西三の撮



図版 2

添郭東の撮



添郭の西の撮

東より見た
赤須城址



赤須城の屋
敷跡といわ
れる発掘地
遠眺



赤須城の屋
敷のあった
といわれる。
(室屋)



図版 3



赤須城本郭より見た馬ぶち、天竜川、東伊那



図版4

赤須城本郭より見た小屋前と天竜川、中沢

赤須城址地名図

